

# 令和2年度 生徒指導部会研究計画

## 1 研究主題

子どもたちが集団の一員として自己実現をめざす生徒指導  
～ 「自分」「集団」「学び」に視点をあてた自己指導能力の育成 ～

## 2 研究主題の設定について

今日のグローバル化の進展、少子化や家族形態の変容、私事化（個人主義的価値観）やライフスタイルの多様化、情報機器のもたらす人間関係の希薄化などによる社会情勢の急激な変化は、子どもや家庭・地域社会に様々な影響をもたらしている。それにともない学校教育の役割の拡大とともに学校が抱える課題も複雑化・多様化してきている。そのような中、一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められている。

生徒指導は、子ども一人一人の個性の伸長を図りながら、同時に社会的資質や行動力を高めるとともに、子どもの健全な成長を促し、現在及び将来における自己実現を図っていくために必要な自己指導能力の育成を目指して行われる教育活動である。自己実現とは、単に自分の欲求や要求を実現することにとどまらず、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築き、自己のよさを集団や社会の中で生かしていこうとするものである。そのためには計画的な生徒指導が求められるとともに、個々の児童生徒の発達段階に応じた個別の指導・支援も大切である。

一方社会の急激な変化にもなると、今日の生徒指導上の課題は複雑化・多様化してきていることは言うまでもない。例えば、いじめや不登校、インターネットトラブル、携帯電話やスマートフォン使用上のトラブル、児童虐待などが挙げられる。このような課題の背景には、子ども自身の特性、学級や学校の実態、家庭や地域、そして社会の環境などが複雑に絡み合っている。もちろん子どもや地域の実態によって差異はあるものの、今日ではどの学校でも避けられない課題となっていることは確かである。

このような中、今年度から新学習指導要領が小学校で全面実施となる。今まで同様、学校教育において、生徒指導は学習指導と並んで重要な意義をもつものであり、両者を関連づけながら、その一層の充実を図っていくことが必要であるとされている。さらに、「生きる力」を育むために提唱された身に付けたい資質・能力として、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱が挙げられているが、とりわけ「学びに向かう力、人間性等」については、深く生徒指導の意義と関わっていると考えられる。例えば、その要素として「学びを人生や社会に生かそうとする態度」「主体的に学習に取り組む態度」「自己の感情や行動を統制する力」「よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度」「互いに尊重し、その良さを生かして協働する力」など、学習指導と生徒指導の両者の融合が大切であることがわかる。

平成29・30年度の県生徒指導研究大会では、生徒指導提要に示されている「学業指導」に着目し、「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に学習に取り組む授業づくり」を双方に効果的に関連させ、生徒指導の三機能を生かしながら自己指導能力の育成に取り組んだ。そして、令和元年度については、学業指導に着目した研究に加え、「自分」「集団」という視点で研究に取り組んだ。自分と向き合いながら、様々な課題を解決できる指導・支援の在り方、そして、集団とともに課題を解決していく指導・支援の在り方について研究をしてきた。

そこで、今年度も学業指導に視点をあてた研究を含め、「自分」「集団」「学び」という三つの視点から、研究を継続していくことにしたい。子ども自身が自分と向き合い、課題を自分事としてとらえ、主体的に解決していくこと。また学級・学年・学校など、主体的・対話的に課題を解決していくことができる集団づくり。そして、生徒指導の三機能を三位一体的に機能させ「集団づくり」と「授業づくり」を効果的に関連を図ることにより、子どもたちに自己指導能力を身に付けさせたいと考える。そして、県内の指導者が多くの実践を共有し、新しい時代における持続可能な生徒指導体制の構築にも繋がることを願って主題に迫っていきたい。

### 3 研究の視点について

#### (1) 「自分」と向き合い主体的に課題解決できる指導・支援のあり方

子どもは、一人一人異なった個性をもっているとともに、それぞれ置かれた生育環境なども違っている。その背景にともなって起こる学習や生活への不適応について、子どもが自分自身の力で解決できるように、一人一人の事情に即した適切な指導を行い、子どもの資質や能力を育成するとともに、社会的な自己実現が図られるようにしなければならない。そのためには様々な角度から子どもを理解し、不適応の原因を分析していくことが必要である。そして、子どもが目の前の課題に「自分事」として真剣に向き合い、主体的に解決できるように効果的な指導・支援を考えていかなければならない。ここでは、教師の子ども理解から始まり、子どもが課題解決を図ることができるプログラムの実践、子どもの特性に応じた支援体制などについて研究を進めていきたい。

##### 【具体的研究の方策】

- ・子ども理解の方策、またそれにもとづいた効果的な生徒指導のプログラム作成の在り方
- ・情報を正しい判断で取捨選択し、命や人権を守る態度を育てる情報教育の在り方
- ・思春期の悩みなどを解決できる効果的な心の教育の在り方
- ・子どもの健全な育成を支える様々な関係諸機関との効果的な連携 等

#### (2) 「集団づくり」を通して課題解決していく指導・支援のあり方

学校生活では、様々な集団活動を通して、規範意識、思いやり、助け合い、責任感など社会生活に必要な資質を学んでいく。そして、その集団の質を高めることにより、学級の中で起こる様々な課題を、自分事として、それぞれがもちうる力を最大限に発揮して解決していくことができるようになる。このように、学校生活の中で、子どもが、学級・学年・学校などの集団において望ましい人間関係づくりができるように、そして、常に集団としてどうあるべきかと互いに高め合える集団となるような指導・支援について研究を進めていきたい。

##### 【具体的研究の方策】

- ・共感的な人間関係を育み、子どもの「心の居場所」がある集団
- ・いじめを許さない集団
- ・生徒指導にもとづいた学級・学校のカリキュラムマネジメントの在り方 等

#### (3) 「学び」に視点をあてた指導・支援のあり方（学業指導）

子どもの学校生活の基本は、言うまでもなく日々の授業である。一人一人の特性に配慮した授業を通して「わかる喜び」を感じさせ、困った時はそれを支援する教師や友達が常に周りにいる環境を整えることが大切である。そして、子どもが自他ともにその存在を認め合い、一人一人が大切にされ、お互いに高め合う集団となっていることも望まれる。こうした、「授業づくり」と「集団づくり」が相互に関連し、自己実現を図られるといったこれまでの研究を引き継いでいきたい。特に、今年度も子どもの特性や生活背景に注目し、その実態に適した指導・支援の取り組みについて研究を進めていきたい。

##### 【具体的研究の方策】

##### ①子どもが意欲的に取り組む授業づくりの方策

- ・自信をもたせる授業、コミュニケーション能力を育む授業、一人一人に配慮した授業 等

##### ②学びに向かう集団づくりの方策

- ・帰属意識の高い集団、規範意識の高い集団、互いに高め合える集団 等

##### 【参考・引用文献】

文部科学省（2017）学習指導要領、文部科学省（2010）生徒指導提要  
森田洋司・山下一夫監修 徳久治彦編著（2019）新しい時代の生徒指導を展望する  
諸富祥彦著（2014）新しい生徒指導の手引き、片山紀子著（2018）入門生徒指導  
栃木県教育委員会（2012）『学業指導の充実に向けて』